

ジョン・レノンが生きていたら

ウクライナ避難の18歳、高校生と合唱動画



写真中央がソリヤさん。左側の5人が清教学園高校合唱部、前列右の3人が八尾高校吹奏楽部。後列右から2人目が阪井和夫さん＝八尾市

80歳・阪井さん 歌づくり若者つなぐ

想像してください、もしジョン・レノンが生きていたら……。そんな歌を、全盲のシンガー・ソングライターがつくりました。ロシアによるウクライナ侵攻にショックを受けての作品です。そして、このほど、あの動画を収録しました。

小学6年生のときに緑内障で視力を失った八尾市の阪井和夫さん(80)。生まれ進学した中学校で音楽のたのほ、真珠湾攻撃があった3カ月前だ。

先生にピアノを教えてもらい、鍼灸の仕事をしたながら歌をつくっていった。20年、アフガニスタンで凶弾に倒れた医師の中村哲さんを追悼するチャリティコンサートを企画し、高校の吹奏楽部や合唱部の演奏を動画配信した。

そんな阪井さんが、ウクライナ侵攻からまもない4月初めにつくった歌が、「ジョン・レノンが生きていたら」。平和にチャンスをも、民衆に力を。そう歌ったジョン・レノンが生きていたら、と想像した。ウクライナで美しく咲くヒマワリ畑の中に立って、小麦が豊かに実る大地に立って、青い空に向かって歌っただろう、平和を願う歌を。

ヒマワリはウクライナの国花。そして、戦争に引き裂かれた男女を描いた映画

「ひまわり」で、ソフィア・ローレンがヒマワリ畑をさまよう、そのロケ地はウクライナだった。また、ウクライナは小麦の一大生産国である。

阪井さんは6月、ウクライナの大学生だったソリヤさん(18)が、ポーランドに避難した家族に仕送りするために、来日して大阪でモデル活動をしていると知った。ソリヤさんと彼女の家族、ウクライナの人たちを応援できればと、動画づくりを思い立った。

これまでも連絡をとりあっている八尾市の府立八尾高校の吹奏楽部と、河内長野市にある清教学園高校の合唱部に声をかけた。

8月14日午後、八尾高校に集まったメンバーたちは数回リハーサルを重ねる。そして本番！

まずは、トランペットでウクライナ国歌の演奏。続いて、ソリヤさんが歌い始

める。
「ジョン・レノンが生きていたら……」

そして、全員が合唱する。電子ピアノでの伴奏は阪井さん。長さ6分弱の動画に仕上がった。

八尾高校3年の加藤瑞紀さん(17)は言う。

「私たちが今すごしている場所は、学校に行けて、ご飯を食べていけて、平和です。でも、それはふつうのことではないんだ、と改めて思います」

清教学園高校2年の川見菜緒さん(17)は話した。

「戦争で苦しんでいる方々のことを思うと、心が痛みます。少しでも何かのお役に立てたらと思って歌いました」

撮影した動画はYouTubeに投稿。「ソリヤ『ジョン・レノンが生きていたら』を歌う」と検索すれば見ることができる。

(編集委員・中島隆)